



## 第2701回例会 2021年11月4日（木）

SAA/ 山本会員

会報担当/ 川島事務局

- 点 鐘 平野会長
- ソング 君が代 奉仕の理想 4つのテスト
- お客様 無し

### ● 平野会長ご挨拶



皆さんこんにちは。  
日増しに寒くなってまいりました。

もう11月になってしま  
い、階前の梧葉既に葉も落  
ち反省一入です。

会員研修の時間が取れま  
した。ロータリーの歴史につ  
い小池会員により卓話  
いただきます。小池さんよろ  
しくお願いいたします。私  
は会員研修という、今年ご  
逝去された齋藤パストガバ  
ナーを思い起こします。本  
日白鳥会員に齋藤 PG のお  
話をお願いしております。白  
鳥さんどうぞよろしくお願い  
いたします。以前は、会員  
研修、炉辺会談、親睦懇親  
会で先輩方がよく「決議  
23-34」について語ってお  
られましたが、そういえば  
最近聞かなくなったと思  
いご紹介いたします。「決  
議 23-34」は1923年に開  
催されたセントルイス国際  
大会に提出された第34号  
議案です。社会奉仕活動に  
関する指針ですが、1923  
年という、日本では関東大  
震災がありました。100年ほ  
ど前に決議されたものでは  
ありますが、「決議 23-34」  
という重々しいロータリー  
らしい表現が先輩方の琴  
線に触れたのでしょうか。

この中の一文をご紹介します。

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。今後のロータリー人生の一助に、今月はロータリー財団月間です。よろしくお願いいたします。

### ● 上野幹事報告



10月31日地区大会に私と会長で出席してきましたそのお土産で、ネクタイピンを頂いてきましたので、本日出席者の方々にはお配りしました。11月13日は情報研修会がありますので、ZOOMにて参加して頂ける方は宜しくお願  
い致します。

### ● 本日のメインプログラム

会員研修（小池会員）ロータリーを知る  
①白鳥会員卓話（齋藤PGを偲んで）

### ● 出席報告

前々回確定 50% 出席者33名 欠席者32名  
本日出席率 52.38%

## ● 本日の司会

山本会員 公共イメージ委員会より野口会員



## ● 例会場

懐石料理 淡粋



## ● ニコニコ報告

藏内会員・・・齋藤博先生お悔やみ申し上げます。お元気な時に私共の家においで頂き、ロータリークラブへ入会するように言われましたが、夫は多忙で時間がなかった為お断りしました。ご縁があって始関さんからのお勧めで私はRCへ入会させて頂きました。

本郷会員・・・白鳥会員・小池会員本日は卓話ありがとうございました。

小池会員2回目もよろしくお願いたします。

小池会員・・・久しぶりの卓話で内容と発表がうまく出来ませんでした。

次回はロータリーの本論に入ります。何卒ご出席下さい。

平野会長・上野幹事・・・新入会員の皆様どうぞよろしくお願いたします。

そして白鳥会員・小池会員ありがとうございました。

齋藤PGありがとうございました。合掌

米山記念奨学会への寄付

西村会員・角谷会員ご寄付頂きありがとうございました。



## ● 新入会員入会式

株式会社高木電機 代表取締役 高木祐司 様

司法書士事務所 代表 関野誠治 様

株式会社オリジナルメーカー

代表取締役 平田秀久 様

3名が入会して頂きました。



## 野口会員

ご出産おめでとうございます。  
9月に男の子が誕生致しました。



## 白鳥会員

齋藤博 先生を忍んで  
卓話頂きました。



### 齋藤博 先生を忍んで

<sup>きさらぎ</sup>如月の中頃、寒い日でした。齋藤 博 先生の訃報に接しました。享年 91 歳でございます。まだ御霊前にご焼香を済ませていないのが心残りです。

私が、先生とお会いしたのは 46 歳の時、1981 年 9 月に市原ロータリークラブに入会したときでした。市原市の重鎮と企業の所長が会員である市原ロータリークラブなので緊張してしまい、齋藤先生の存在を知りませんでした。ただロイド眼鏡を掛けてがっしりした端正な方が居たことを覚えています。先生は高校の 5 年先輩であることを後で知りました。

クラブに馴染むにつれて先生に接する機会が多くなり、温厚な人柄であり、日本の古来のしきたりを<sup>たつと</sup>尊ぶ方でした。花柳界に遊んでも旦那衆としての威厳を保っていました。粹に硬と軟があるとすれば、<sup>じん れい</sup>仁と礼をわきまえた硬派の粹といえるかもしれません。リボンより<sup>かんざし</sup>簪、靴より下駄といったところです。けれども先生の着物姿を一度も見ておりません。

よく江戸の風情が残っている浅草に連れていただき、<sup>いまはん</sup>今半のすき焼きを食し、SKD (松竹歌劇団) を観劇しました。市原ロータリークラブの周年行事や先生がガバナーの地区大会のアトラクションに SKD が出演し大会に華やかな<sup>いろどり</sup>彩を添えていました。

浅草寺裏の吉原遊郭で苦界から抜けられずに息絶えた遊女たちの<sup>なげこみてら</sup>投込寺で知られている<sup>じょうかんじ</sup>浄閑寺にある遊女の墓を参り、不幸であった遊女に思いを馳せていました。江戸文化の発祥地であった浅草、吉原についての先生の豊富な知識と SKD の踊り子との関係に見られる顔の広さに驚きました。なぜかビッフェスタイルの食事 (パイキング) を嫌っていました。これは旦那衆の威厳がそうさせたのかもしれませんが。先生が 1987 年の 2790 地区ガバナーを務められた折、ロータリーに興味を持ち始めた私は、先生の卓話や雑談の中にロータリーの歴史や思想を話されることを、干天の慈雨のようにロータリーを吸収し、理解を深めて知識欲を掻き立てられたのです。ロータリーはアメリカのシカゴが発祥地であり、西洋人の開発した思想が中心となっていますが、先生は、日本の思想・東洋思想 (仏教 儒教) を根本においていたように思います。いわば東洋思想の復権運動的要素があるのではないかと思えるふしがありました。ロータリーにおいては西洋の思想の技術に触発されて東洋の思想が復活したと考えていたようです。例として韋駄天の話や「正法眼蔵」の道元禅僧の話が随所にできます。

江戸文化に造詣が深い先生は「奉仕の実践に関する決議 23-34」の冒頭に「ロータリーとは一つの実践哲学であり、それは実践されなくてはならない」としてロータリーは社交クラブであり、親睦団体の形をしているが、ロータリーの本質は会員相互の「切磋琢磨」であり、例会は「人生の道場」としてしています。先生の一言一句に感化されていました。

後にガバナーを務めることになった時、先生からの「ロータリーとはなんぞや」を学んでいたことが大変役に立ちました。



それ以来、私は生活面や人間形成に おいてロータリーの思想に啓蒙され続けています。士農工商の良い意味での身分をわきまえていた先生は、ロータリーの文献の中の名文を渉猟していました。米山梅吉翁の昭和15年の東京クラブ解散のスピーチや二人のご子息を若くして亡くした追悼文、大連ロータリークラブの5ヶ条からなる宣言文、さらに1915年サンフランシスコの国際大会に採択された11ヶ条からなる「全分野の職業人を対象とする倫理訓（道徳律）」など折に触れ名文を話されておりました。

「利他と利己の調和」「奉仕・親睦」「職業奉仕」をはじめ縦社会の管理より横社会の管理に力を注いだ方が団体は活気づく話など例を出して説いてくれました。それらをいくつかの小冊子にまとめております。今、読んでも教えられることが多くあり、こころの浄化に役立っています。

ロータリーが、ロータリーの精神を学び世に役立つ人を輩出しているさまは、ちょうど朝靄に大地がしっとり濡れて穏やかな素晴らしい雰囲気醸し出しているのに似ているといえます。

こうしてみると、先生からロータリーばかりでなく人生の何たるかの訓えは、本質を突いたものでございました。地区においてもロータリーの本質を説く理論派の重鎮でありました。

古き良き日本の伝統を継承していた先生は、鄙びた街道を歩き古老から土地の話を聴き歩きすることを生涯の趣味としていました。晩年に「街道と宿場」と題した紀行文と写真集を、心血を注いで、上梓しております。希少な見事な書物です。

ロータリーにおいて人との出会いで感化されていくのは、ロータリーからの贈りものといえるかもしれません。1996年1月の3回にわたる例会で「ロータリー運動とは」と題して卓話をして頂きました。その最後に「人が死に臨むとき、その人の価値を決めるものは、富でもなく地位でもなく、また名誉でもありません。自分の歩んできた人生を振り返るとき、数々の出会やドラマがきら星のごとく輝いているかどうか、そして『俺の人生を有り難う』とってこの世を去っていきけるかどうかということでもあります」と結んでおります。

謹んで 先生のご冥福を申し上げ、生前中のご厚誼を感謝し先生を偲ぶ言葉にさせていただきます。

## 小池会員より卓話

### ロータリーの歴史「ロータリー創立とポールハリス氏の生い立ち」



此の2年間に15名の会員が入会され、74名となりましたが、3年未満の会員にロータリー情報をお伝え出来ませんでした。

その機会が参りましたので、2回シリーズの第1回目はロータリーの歴史「ロータリー創立とポールハリス氏の生い立ち」についてお話を致します。

コロンブスアメリカ発見数年後、ヨーロッパ各国からフロンティアを夢見て、アメリカ東海岸の各地から入植し、原住民との闘いをしながら西へと開拓を進めていきました。同時に内陸ではアパラチア山系からの鉄鉱石、石炭石油等鉱物資源が豊富に産出され、国内需要の高まりから、重化学工業が発達し、人手不足を招き、アフリカの黒人奴隷、ヨーロッパ、中国、日本からも移民を大量に受け入れ、

多種多様な職業で重労働を強いられていました。南北戦争、大陸横断鉄道の東西開通やシカゴへのミシシッピー川とミシガン湖の開通で一気に産業革命が進み、ロックフェラー、カーネギー、デュボン等大資本家が生まれました。資本主義が発展して行く中で、労使紛争やストライキが起り、失業者が街中を埋めるようになり、強盗、殺人、商業道德の欠けた商売人が多く、信用できない世の中が1905年のロータリーの創立時期まで続いておりました。

さて、これからはロータリーの産みの親と称されるポールハリス氏の生い立ちについてお話いたします。1868年誕生、父の職業の倒産から少年時代を祖父母の家庭で育ちました。祖父は勤労理論と寛容な心の大切さを教育され、祖母からは厳格そのもので礼儀、秩序、清潔さ、親切さ、思慮深さに身をもって体験させられました。法律家を目指せと促され、学費の援助でアイオワ州立大学法学部に入学、卒業後弁護士取得。卒業時、大学教授から「5年は外に出て社会勉強をして楽しめ、それから職業に着け」との指導を受ける。5年間の愚行が始まり、北米を西回りに出発、狩猟や漁、サンフランシスコの新聞記者、果物園の日雇い労働者、ビジネス学校の講師、舞台俳優、新聞記者、農場のカーボーイ、ホテルの係員、フロリダの大理石販売員、新聞紙上の広告に応募しイギリスへの牛運搬船の船員としてロンドン見学を3往復達成、苦勞の中一番幸せの日々を経験しました。その店主の勧めで再度のヨーロッパ大理石見学旅行で他国の人と文化に接し、感謝と奉仕の念を十分学んで帰国。弁護士事務所開業資金を得るため、南部の農園で働き、5年の愚行を終え1896年2月27日シカゴへ向かう。28歳であった。

5年の放浪生活で空腹や寒さや孤独を味わい、数えきれない善悪を経験し、人生とは自分が注いだだけのものは得られるものだと学んだ。他人を良く理解するようになり、ビジョンも生まれた。世界は多文化の地であり、より深い理解が必要な場であり、孤立主義の視点で見るとは思えないと考えるようになった。シカゴ到着時の様子は、新聞紙上は政治汚職の蔓延を伝え、万博後の建築ブームは終わり、多くのビジネスも街を去り、景気は後退していた。シカゴの街の精神は「弱肉強食や買う者の危険負担」が罷り通っていた。スリや殺人は横行し、街中は牛の屠殺場からの悪臭が漂い環境悪化が酷く、市民は当惑し激怒していた。このような社会で友人を見つけるにはどうすれば良いか。シカゴ市民は我欲や利己心や競争の虜になっている様子を見て、孤立感が強まり、寂しく冷たい大都会の真ん中に落とされた田舎者のように感じた。夕食は多くのレストランに行き、各階層の人から異文化について学び、ポールは無宗教の為、日曜日には多くの教会回りをしてもっと人間について学びたかった。ポールは多く知人は居たが真の友人は居なかった。田舎出身の青年と知り合いになれないか、温和な少年時代の友の声を毎日乞い願っていたことか。ある日友人と街中を散歩中、各店舗の主人が友人とファーストネームで呼び合い、笑顔で強い握手をしているさまが、少年時代の田舎の付き合いと一致し、一粒のクラブと言う種がポール・ハリス氏の肥沃の心にまかれた。

1905年真の友人がいない中、最も親しい知人の石炭商のシルベスター・シールに実業家が互いに友人関係を築けるようなクラブ、信頼できる友人の輪を使って仕事の取引が出来るようなクラブを作りたいと言う構想を説明、2～3か月後の1905年2月23日ガスターバス・ローアの事務所で、初会合をハイラム・シューレを入れ4人で実施、シカゴロータリークラブが創立されました。

以上、74枚のスライドを早口で説明しましたので、ご理解できなかった点があると思いますが、ご容赦頂きたいと思っております。

今回はシカゴロータリークラブの設立から現在までのお話を致します。是非ご出席ください。